

令和5年産大豆の播種について

令和5年6月22日
J A た が わ
田川普及指導センター

○適期播種（～7月10日（遅くとも20日））しましょう

大豆は、播種が遅れると、確実に減収します。
部分浅耕播種技術等を活用して、適期に播種しましょう！

○梅雨の合間に播種しましょう

近年、梅雨明け後、乾燥日が続く傾向にあり、梅雨明け後の播種では、発芽不良の事例が散見されます。

大豆は、芽立ちが悪いと最後まで生育が悪いため、梅雨の合間に播種しましょう。

○播種後は、暗きよの栓を閉めましょう

大豆は、水を必要とする作物です。特に開花期（お盆過ぎ）以降の乾燥は、減収に直結します（中、小粒が増加）。

しかし、前述のとおり、梅雨明け後は、乾燥日が続く傾向にあるため、暗きよの栓を閉めましょう（注：排水不良田を除く）。

要水量 (乾物1kgを生産するのに必要な水の量)	
大豆	307～429ℓ
水稻	211～300ℓ
小麦	164～191ℓ

Q 大雨の時は栓を開けないといけないのか？

A 大雨の時は、暗きよの出口は水中にあり、排水できないため、開ける必要はありません。排水については、事前に額縁排水（明きよ）を設置するなど、表面排水対策をしっかりと行っておきましょう。

○雑草対策をしっかりと行いましょう

アサガオやホオズキ等、難防除雑草が発生しているほ場では、特に初期除草をしっかりと行いましょう。播種前に残っている雑草は、土壌処理剤は効かず、すき込んでも再生するので、ラウンドアップ等の茎葉処理剤を散布しましょう。

(播種前) 茎葉処理剤の例：ラウンドアップマックスロード

(播種後) 土壌処理剤の例：ラクサー乳剤 + フルミオWDG